

## 田中信義君・浜野武人君を偲ぶ

ガネフォ水球

古川 康之

中央大学卒

「ガネフォ」に参加して60年が経過しました。

すでに、菅久尚武(享年74歳)、田中信義(享年51歳)、浜野武人(享年67歳)、房野康慈(享年79歳)の4名の方々が帰らぬ人となっております。この意義ある節目の年と一緒に迎えられない事が、残念でなりません。

心よりご冥福をお祈りいたします。

田中信義・京都府出身・昭和33(1958)年 府立 山城高校 卒

浜野武人・東京都出身・昭和33(1958)年 私立 城北高校 卒

両君との出会いは、中大水泳部からです。

昭和33(1958)年、私が2年生の時、水球の1年生5名が入部してきました。やっと後輩が出来た。今迄は、練習の、準備や後かたづけ等々……、1年生の仕事が多く、休憩をする時間も自由に出来ない1年間でした。

やっと少しは楽になると思っていたところ、彼らの水球のレベルが思った以上に高く、心中穏やかでいられなかった事を思い出します。

自分は、「3年生には正選手になるぞ!」と決意していましたが、壁にぶつかり、目標や夢を見失い、ホームシックになったり、やる気を失くしかけていました。

そこに新入生、「このままでは追い越されてしまう!」、強烈な刺激を受け、心肝に「活!」を入れられた思いでした。

特に、田中、浜野両君はポジションがフォワード、自分はバックス。練習では彼らが攻め手、自分は守り手で、「水球」は水の中の格闘技とも言われ、いつも激しくぶつかり合い、互いにしのぎを削り合った事を忘れることは出来ません。

彼らの攻めを制御出来ない限り「正選手」にはなれないと覚悟を決め、水の中では「練習」即「自分との戦い」でもありました。

あの激しく、厳しい練習が自分を正選手に押し上げてくれたと思っています。

自分が挫けそうになったとき、いつもあの「決意」と「戦い」が頭をよぎり、その度に気持ちを立て直して自分に勝つことが出来た事、両君に感謝、感謝です。

本当にありがとう! 感謝の気持ちでいっぱいです。

両君は、昭和34(1959)年、2年生で正選手に昇格。

\*田中君は泳ぎ回って敵の守備を崩すチャンスメーカー。使命感、協調性は抜群。昭和36(1961)年 主将に任命されました。

\*浜野君は敵ゴール前に陣取りいつも大声で鼓舞し、ボールをキープ、機を見てシュートしてゴールを決める、バックシュートが得意技。水球大好き  
の熱血漢。

昭和35(1960)年私が4年生、主将を拝命、最初の試合が第2回末広杯でした。二年連続優勝を懸けて、宿敵日大と決勝戦で対決、3対3で決着つかずルールにより反則数が1つ多い中大の反則負けとなり惜敗。

力及ばず苦杯を喫し涙を飲みました。

主将として「絶対勝つぞ!」の気迫が欠けていたと猛省し、この気迫こそ主将の一番の使命と教えられ、捲土重来、この悔しさは2度と繰り返さないと強く心に誓った事を覚えています。

その想いで関東大学春季リーグ戦を順調に勝ち進み、6月下旬これからは終盤戦、一番大事な時、練習で私は不覚にも脊髄を損傷、試合はおろか練習も出来なくなりました。8月下旬 練習に復帰した時は、すでにシーズンも終わりに近く、戦力として、また主将としての責任を果たす事が出来ず、監督やチームメイトに多大の迷惑をかけてしまいました。

名誉挽回をすることも出来ずシーズンは終わってしまいました。

悔やんでも悔やみきれない、痛恨の極みでした。

その間、両君はチームを良くまとめ鼓舞激励し敢闘してくれました。

いつも主将の私の心中を察し、何かとフォローし支えてくれました。

私は両君に対し、いつも頭が下がる思いでした。

常に存在感のある、頼りがいのある後輩でした。

いつまでも心に残る両君です。

残念ながら二人は若くして逝ってしまいました。

哀惜の念に堪えません。

心よりご冥福をお祈りいたします。

以上